

2023年卒
Vol.03

1月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年1月発行)

3月の就職活動本番を2カ月後に控えた1月1日時点で、2023年卒学生の準備状況はどの程度進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。また、新型コロナウイルス感染状況による就活への影響についても考えを聞いた。

1. 現在の志望業界

- 「明確に決まっている」34.1%。前年同期調査を上回る。「決まっていない」も増加
- 志望業界1位「インターネットサービス」、2位「情報処理・ソフトウェア」。IT人気続く

2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「将来性」が1位。「社会貢献度が高い」「希望の勤務地で働ける」がコロナ禍前より増加
- 柔軟な働き方「企業選びに影響する」9割超。「在宅勤務」の注目度が高まる

3. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が最多(92.8%)。「各企業のホームページ(採用サイト)」が続く
- 就活でのSNS利用が広がり、LINEの企業採用アカウント登録者・登録社数とも年々増加

4. インターンシップ等(※)の参加状況と参加後のアプローチ

- 参加経験がある学生は約9割(88.2%)。「今後も参加したい」が8割(80.1%)
- 参加企業からの「限定セミナーの案内」「早期選考の案内」が2年連続で大きく増加

5. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

- 「本選考を受けた」49.2%。前年同期(41.5%)より7.7ポイント上昇
- 「内定を得た」13.5%。但し、活動終了者はわずか

6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

- 「早期選考を受けたい」65.2%、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」56.9%の順

7. 志望企業との対面での接点

- 第一志望企業と対面で接触した経験がある学生は4割強(42.5%)。前年よりやや増加
- 本選考が始まるまでに対面での接点が必要と考える学生は8割近く(計76.8%)

8. 今後の就職戦線の見通し

- 「先輩たちより楽になる」が増加も、今後のコロナ感染状況次第で採用数に影響が出ると予想

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,104人(文系男子395人、文系女子310人、理系男子270人、理系女子129人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2022年1月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

1. 現在の志望業界

1月1日時点での志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が34.1%で、前年同期調査(32.0%)を上回った。志望業界確定のタイミングが早まっている様子が見て取れる。一方で、「決まっていない」も前年同期を上回り(23.1%→25.5%)、11月後半に実施した前回調査(23.0%)よりも増加した。業界を絞らずに活動を進める層が増えている可能性があるほか、インターンシップなどで企業と接点をもつ中で、志望業界を見直す学生も出てきていると見られる。

「なんとなく決まっている」との回答も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねた(40業界から5つまで選択)。全体で最も多いのは「情報・インターネットサービス」(20.8%)で、2位は「情報処理・ソフトウェア」(19.0%)と、前年に引き続きIT業界に人気が集まっている。3位には「銀行」が入ったが、文系学生においてポイントが高く、特に文系男子の3割超が選んでいる(31.6%)。理系学生はITのほか製造業が上位に多く、理系女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最多。

<志望業界の決定状況>

	全体	(11月調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	34.1	30.0	32.0	37.5	21.6	43.7	33.3
なんとなく決まっている	40.4	47.1	44.8	38.7	41.6	39.6	44.2
決まっていない	25.5	23.0	23.1	23.8	36.8	16.7	22.5

<志望業界(上位 15 業界)>

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報・インターネットサービス ① 20.8	銀行 31.6	マスコミ 21.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 28.0	医薬品・医療関連・化粧品 35.0
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ② 19.0	情報・インターネットサービス 22.9	情報・インターネットサービス 17.3	素材・化学 25.8	素材・化学 30.0
3	銀行 ④ 16.4	調査・コンサルタント 19.3	銀行 14.3	情報・インターネットサービス 20.9	水産・食品 29.0
4	調査・コンサルタント ⑩ 15.6	商社(総合) 17.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.3	電子・電機 20.9	情報・インターネットサービス 21.0
5	水産・食品 ⑤ 15.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.9	官公庁・団体 13.3	自動車・輸送用機器 19.6	精密機器・医療用機器 18.0
	素材・化学 ⑦ 15.0	建設・住宅・不動産 16.6	調査・コンサルタント 12.2	機械・プラントエンジニアリング 17.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.0
7	建設・住宅・不動産 ③ 14.2	商社(専門) 15.0	水産・食品 12.2	水産・食品 16.4	建設・住宅・不動産 16.0
8	電子・電機 ⑦ 12.0	運輸・倉庫 14.6	運輸・倉庫 11.2	調査・コンサルタント 16.0	エネルギー 14.0
	エネルギー ⑮ 12.0	マスコミ 13.0	人材紹介・人材派遣 11.2	エネルギー 15.6	官公庁・団体 14.0
10	医薬品・医療関連・化粧品 ⑨ 11.6	保険 13.0	保険 10.7	精密機器・医療用機器 15.6	調査・コンサルタント 10.0
	マスコミ ⑬ 11.6	通信関連 12.0	建設・住宅・不動産 10.2	建設・住宅・不動産 13.8	農業・林業・鉱業 10.0
12	官公庁・団体 ⑥ 11.3	官公庁・団体 11.3	商社(総合) 10.2	医薬品・医療関連・化粧品 13.3	電子・電機 9.0
13	商社(総合) ⑫ 10.5	水産・食品 11.0	通信関連 10.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.9	機械・プラントエンジニアリング 9.0
14	運輸・倉庫 ⑭ 10.3	証券・投信・投資顧問 11.0	エネルギー 9.7	官公庁・団体 8.4	自動車・輸送用機器 8.0
15	自動車・輸送用機器 ⑩ 10.2	電子・電機 10.6	教育 9.2	通信関連 8.4	印刷・パッケージ 8.0

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

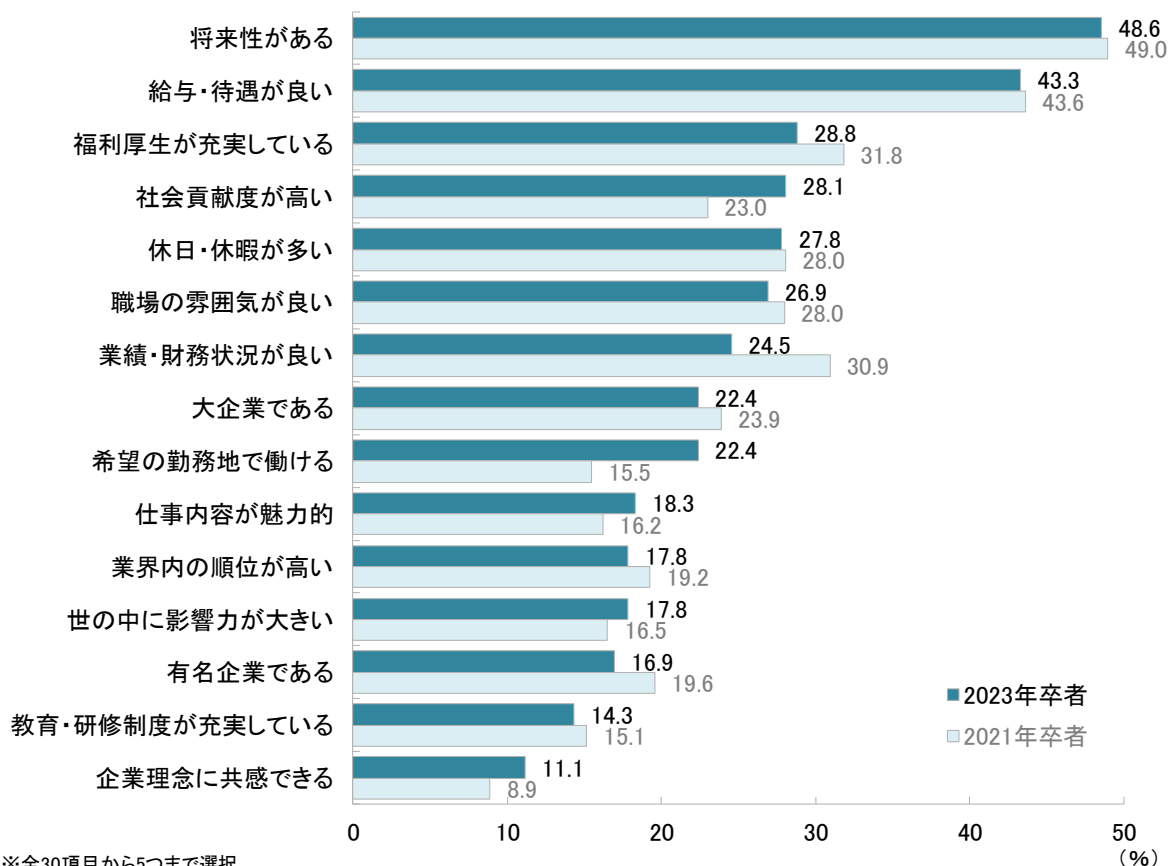
2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目の選択肢の中から 5 つまで選んでもらい、コロナ禍前の 2020 年 1 月調査 (2021 年卒者) と比較した。

上位 3 位までの順位に変化はなく、最も多いのは「将来性がある」(48.6%) で、2 位は「給与・待遇が良い」(43.3%)。ともに 4 割超が選んだ。3 位は「福利厚生が充実している」だが、2 年前に比べややポイントが減少した (31.8%→28.8%)。他に「業績・財務状況が良い」もポイントを下げている (30.9%→24.5%)。コロナ不況と言われる中で、足元の業績にとらわれない学生もいるのだろう。

一方、ポイントが増えた項目は、「社会貢献度が高い」(23.0%→28.1%)、「希望の勤務地で働ける」(15.5%→22.4%) など。企業が SDGs への取り組み状況を情報発信することが増えたり、コロナ禍でワークライフバランスに改めて注目が集まったりしたことなどが背景にありそうだ。

＜就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15項目)＞

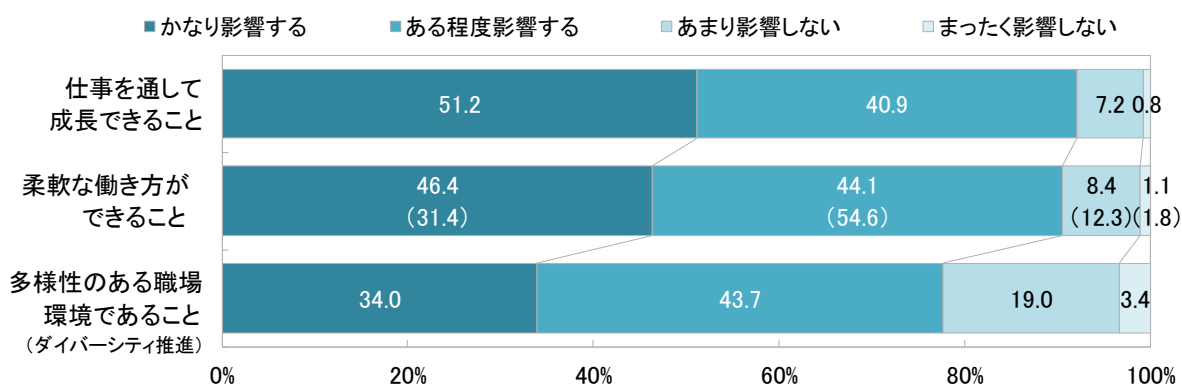


■企業を選ぶ際に重視したい点

- 事業の将来性に加え、社会貢献性が高ければ、その分働く上でのモチベーションになり、頑張れると考える。
＜文系男子＞
- 専門的知識を得る、スキルを身に付けられるという方向で、自身の成長につながる業務内容に惹かれます。
＜文系女子＞
- 人を笑顔にできるような製品やサービスを提供している点を重視しています。その上で、年間休日が 120 日以上あり、福利厚生が充実している企業に魅力を感じます。
＜理系男子＞
- ワークライフバランスをととても重要視しています。自分だけでなく、家族や友人を大切にできる環境で働きたいです。
＜理系女子＞

次に、就職先企業選びに、下記の3つの項目がどの程度影響するかを尋ねた。「仕事を通して成長できること」は、過半数の学生が「かなり影響する」と回答(51.2%)。「ある程度影響する」を合わせて9割超(計92.1%)が「影響する」との考えを示した。「柔軟な働き方ができること」も、「かなり影響する」「ある程度影響する」の合計が9割を超える(計90.5%)。前年調査と比較すると、「かなり影響する」が大きく増加した(15ポイント増)。「多様性のある職場環境であること」は、3項目の中では一番ポイントが低いものの、「影響する」と回答した学生は7割強に上り(計77.7%)、いずれの項目も企業を選ぶ上で重要な指標と捉えられていることがわかる。

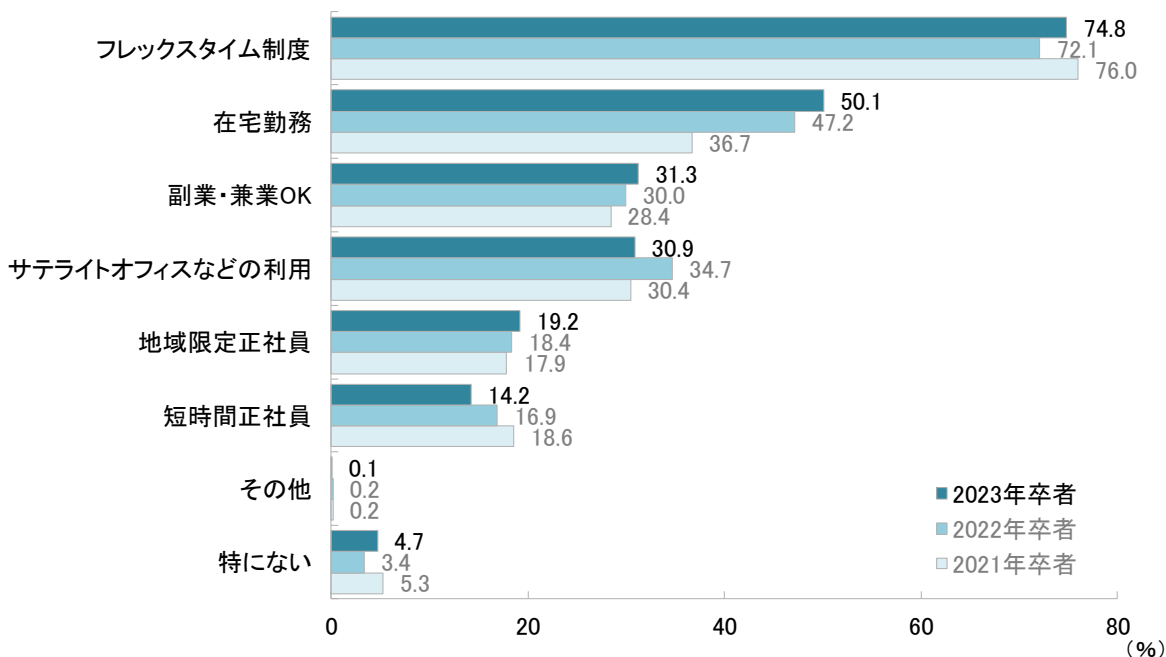
<就職先企業選びへの影響度合い>



※「柔軟な働き方ができること」の()内は2021年1月調査の数値。他の2項目は前年データなし

柔軟な働き方について、学生は具体的にどのような働き方を魅力的と捉えているのだろうか。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多いのは「フレックスタイム制度」で、7割強が選んだ(74.8%)。続く「在宅勤務」は、コロナ禍において注目度が高まり、前々年から前年にかけてポイントが急増したが、今年はさらに増加した(36.7%→47.2%→50.1%)。

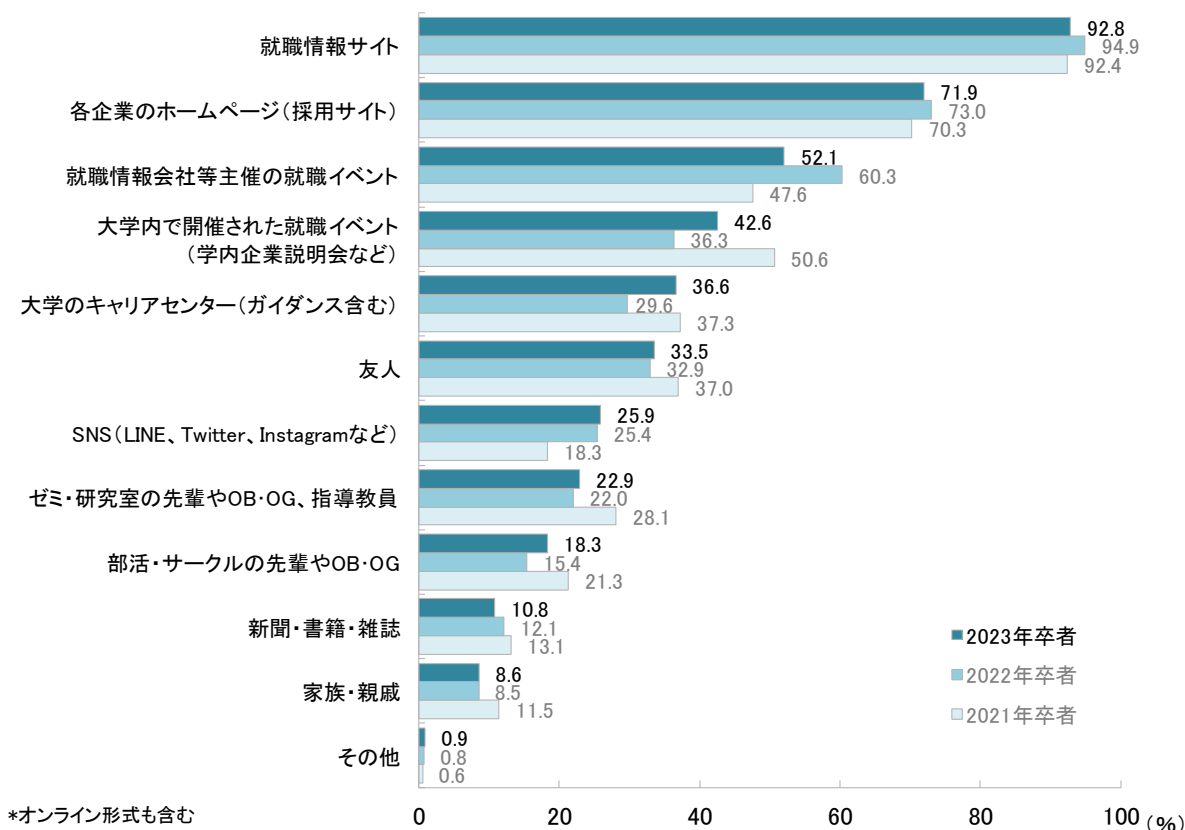
<魅力的だと思う働き方(柔軟な働き方)>



3. 就職活動に関する情報の入手先

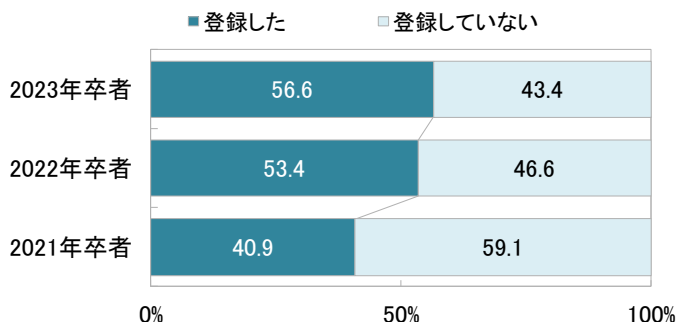
就職活動に関する情報の入手先を尋ねたところ、最も多いのは「就職情報サイト」で 9 割を超えている (92.8%)。次いで「各企業のホームページ (採用サイト)」(71.9%)、「就職情報会社等主催の就職イベント」(52.1%) が続く。「大学内で開催された就職イベント」「大学のキャリアセンター」は、コロナ禍の影響により、前々年から前年にかけて大きく落ち込んだが、今年はどちらも増加に転じた。「友人」「ゼミ・研究室の先輩や OB・OG、指導教員」「部活・サークルの先輩や OB・OG」など、リアルの間関係からの情報入手も戻りつつあるようだ。

＜就職活動に関する情報の入手先＞

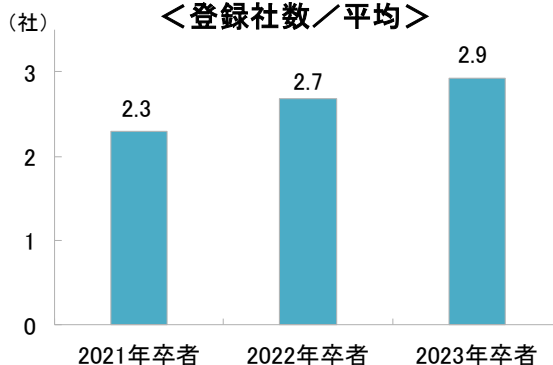


就職活動において利用が広がる LINE について尋ねた。企業の採用アカウントに登録している学生は 5 割強 (56.6%)。この 2 年で大幅に増加した (15.7 ポイント増)。また、一人あたりの登録社数の平均は 2.9 社で、登録社数も年々増加している。

＜LINEでの企業の採用アカウントの登録＞



＜登録社数／平均＞



4. インターンシップ等の参加状況と参加後のアプローチ

インターンシップ等のプログラムへの参加経験を尋ね、3カ年分のデータを比較した。

調査時点で参加経験がある学生は約 9 割 (88.2%)。プログラムの実施日数別に参加状況を見ると、最も多いのは「1日以内」で 8 割を超える (84.1%)。インターンシップ参加経験者のほとんどが「1日以内」のプログラムへの参加経験を持つ。一方で、「5日間以上」は 23.3%と 2 割台にとどまる。

参加社数が最も多いのも「1日以内」のプログラムで、平均 8.6 社。前年より 1.5 社増。コロナ禍前の調査 (2021 年卒 : 5.6 社) と比べると 3 社増加した。「2~4日間」(3.3 社) も増加傾向が見られる。コロナ禍をきっかけにオンラインでの実施が主流となる中で、比較的短期間で実施されるプログラムの参加機会が増えたことが読み取れる。

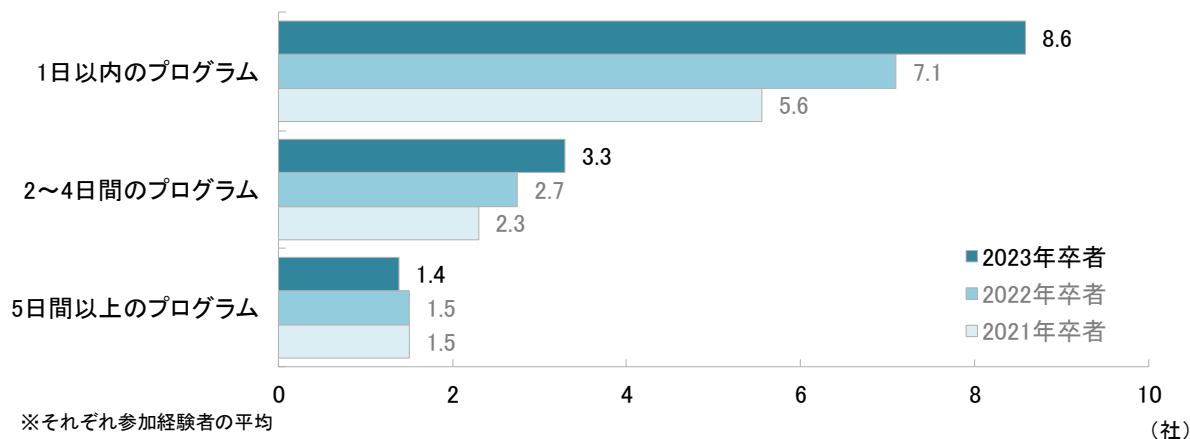
今後については、約 8 割が「参加したい」と回答 (80.1%)。前述のように、すでに多くのプログラムに参加している分、前年調査 (83.9%) に比べやや減少したものの、今後参加したいと考えている企業数は前年を上回る (平均 7.4 社→7.7 社)。

<プログラム日数別参加状況>

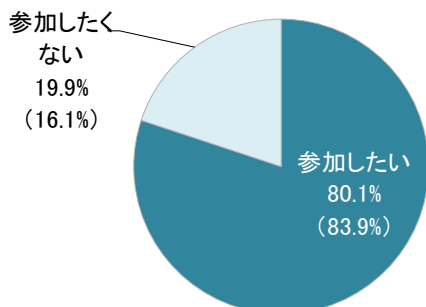
	全体	(2022年卒者)	(2021年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラムに参加	84.1	83.7	83.7	85.6	83.2	81.9	86.8
2~4日間のプログラムに参加	55.7	52.8	47.7	60.5	48.1	54.1	62.8
5日間以上のプログラムに参加	23.3	23.2	34.9	20.5	18.4	28.5	32.6

* オンライン形式も含む (以下同)

<プログラム日数別参加社数>

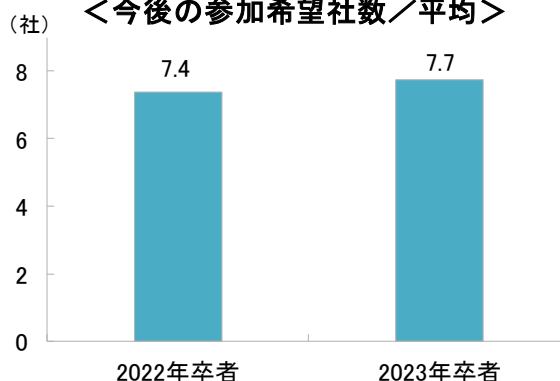


<今後の参加意向>



※()内は2021年1月調査の数値

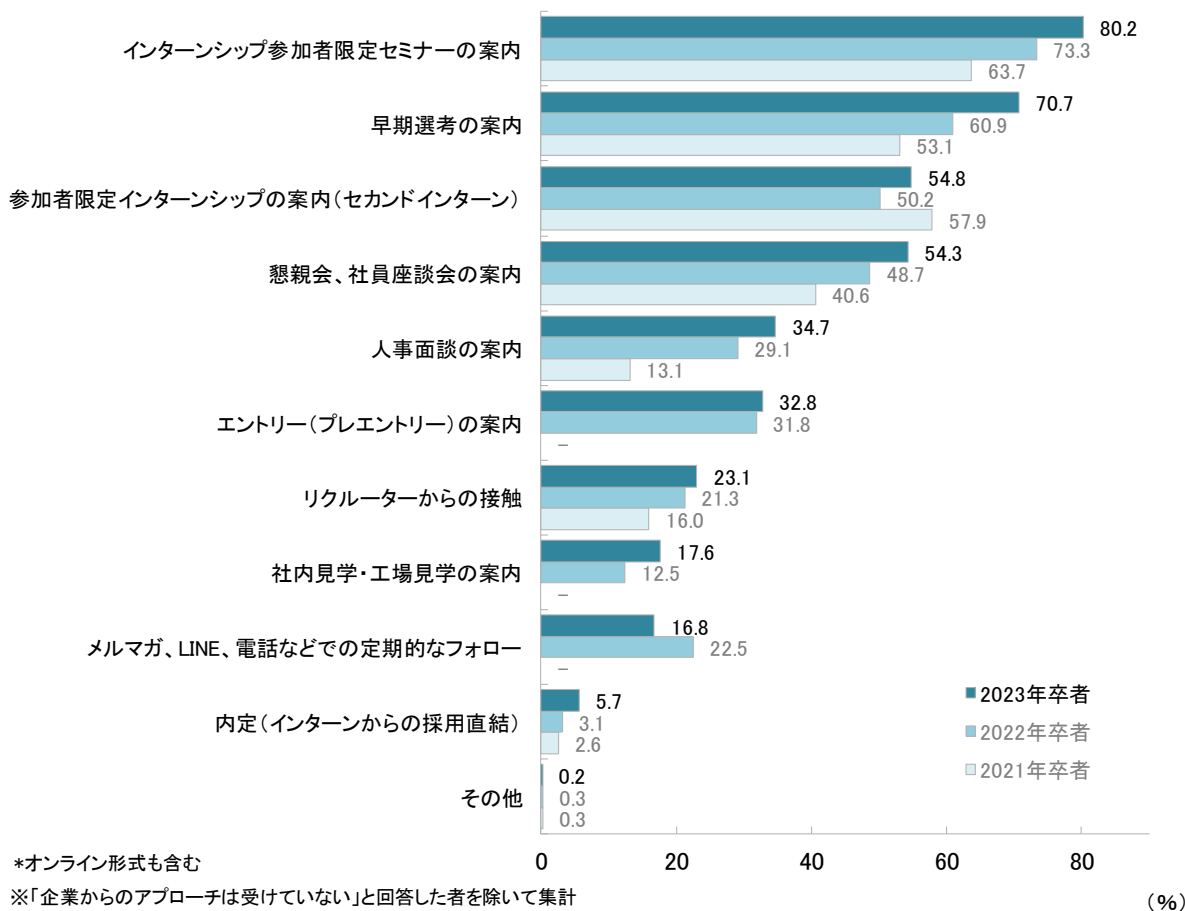
<今後の参加希望社数/平均>



インターンシップへの参加経験がある学生 (全体の 88.2%) を対象に、参加後に企業からアプローチを受けたかどうか尋ねたところ、「アプローチを受けた」学生は 9 割超 (94.4%)。大半の学生が企業から何らかのアプローチを受けており、インターンシップ参加後のフォローやアプローチは一般化していると言える。

どのようなアプローチを受けたかを尋ねると、「インターンシップ参加者限定セミナーの案内」が最も多く約 8 割 (80.2%)。次いで、「早期選考の案内」が約 7 割 (70.7%)。いずれも 2 年連続で大きく増加している。3 位以下の項目も前年よりポイントが上昇しているものが多く、参加社数が増加したことで、より多くのアプローチを受けている様子が表れている。

＜インターンシップ参加後に企業から受けたアプローチ＞



■あると嬉しいインターンシップ参加後のフォロー

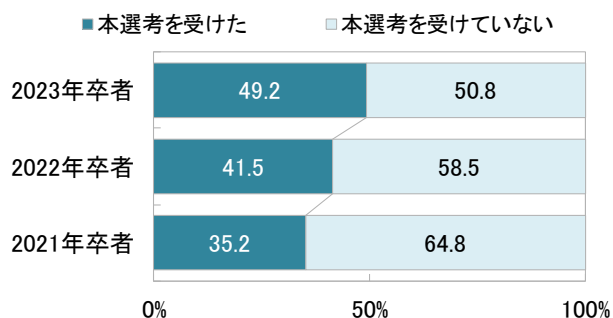
- インターンの内容の振り返り、今後のアドバイス。 <文系男子>
- インターンシップ参加後に、社員の人との面談など直接的な交流の機会が欲しい。 <文系男子>
- オンラインで行われたインターンは、後日、実際の会社を見に行けるような会社見学会などを開いてもらえたら嬉しい。 <理系女子>
- 参加後も定期的にイベント等があると理解が深まり、志望度が持続・向上する。 <文系女子>
- 具体的にどういふことを勉強した方がいいとか、面接でこういふのが聞かれやすい等の後押し。 <理系男子>
- インターンシップでも選考が行われているので、インターンシップ参加者には不参加者よりも有利に本選考が進められるようなものが欲しい。 <文系女子>
- インターンシップの成果をみて、早期選考の案内が個人的にくるのは嬉しい。 <理系男子>

5. 1 月 1 日時点の本選考受験状況と内定状況

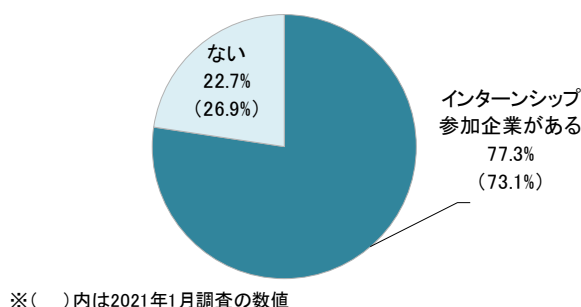
本選考(採用選考)の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が49.2%で、回答者の半数近くを占めた。前年同期調査(41.5%)を7.7ポイント上回り、この数字は年々上昇している。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は3.2社。本選考受験企業の中にインターンシップ参加企業があると答えた学生は77.3%に上り、インターンシップから早期選考へとつながるケースが多いことがこのデータからもわかる。

内定状況については、「内定を得た」との回答が13.5%。前年同期(8.7%)を5ポイント近く上回るが、学生モニターの大多数が就職活動を継続している(98.0%)。

＜1月1日現在の本選考の受験有無＞

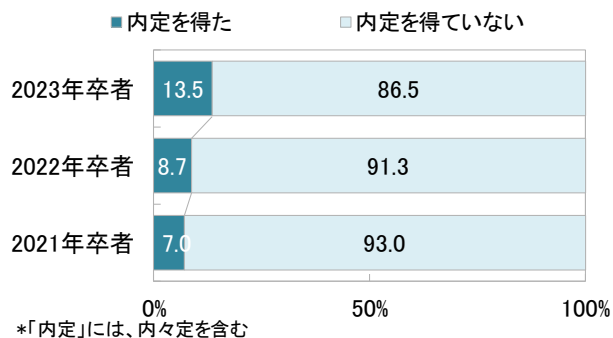


＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞

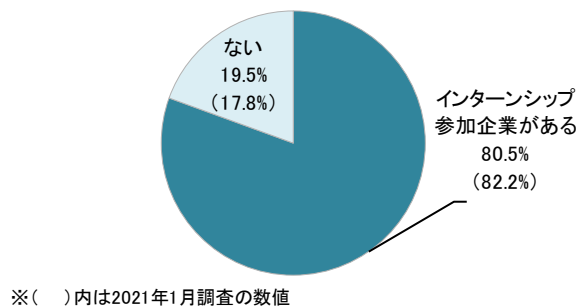


	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	49.2%	41.5%	50.6%	47.1%	47.8%	52.7%
本選考を受けていない	50.8%	58.5%	49.4%	52.9%	52.2%	47.3%
選考受験社数(平均)	3.2社	3.0社	3.5社	3.4社	2.9社	2.4社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.7社	1.5社	1.8社	1.8社	1.5社	1.5社

＜1月1日現在の内定の有無＞



＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	13.5%	8.7%	12.7%	12.3%	13.3%	19.4%
内定を得ていない	86.5%	91.3%	87.3%	87.7%	86.7%	80.6%
内定社数(平均)	1.4社	1.2社	1.3社	1.4社	1.5社	1.4社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.0社	0.9社	1.0社	1.1社	1.1社	1.0社

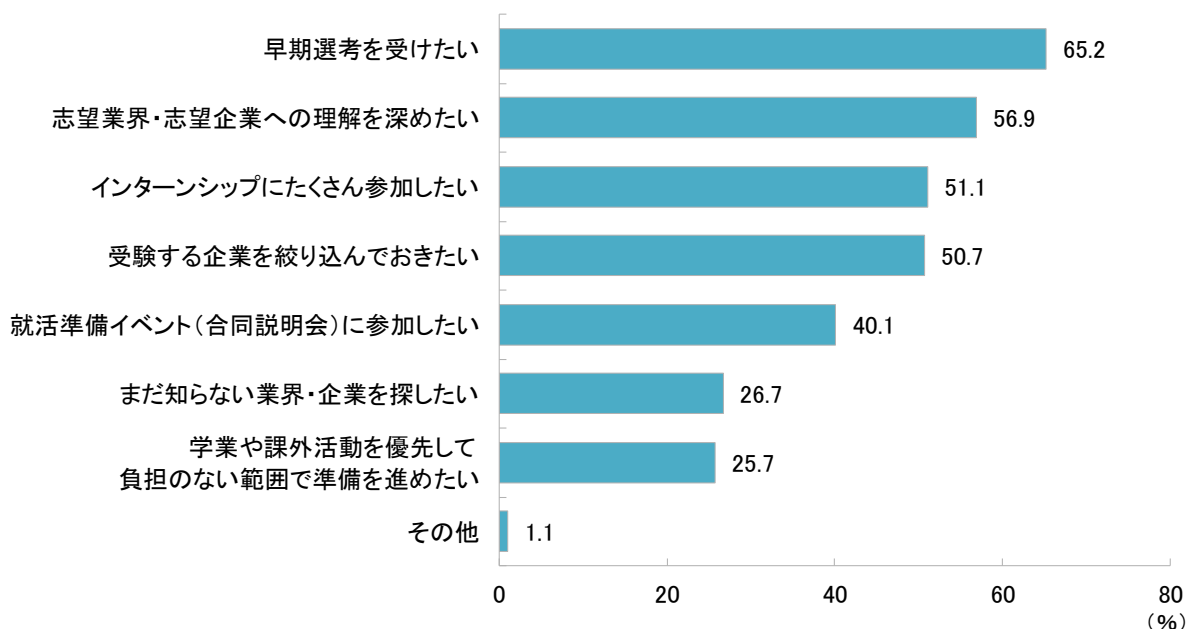
6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

3月の就職活動解禁までに、学生はどのように準備を進めようと考えているのだろうか。最も多いのは「早期選考を受けたい」で、6割を超える学生が選択した(65.2%)。就活解禁まで2カ月あるが、本選考を経験しておきたいと考える学生が多いことがわかる。この項目を聞き始めた3年前(2020年卒:46.1%)に比べ約20ポイント上昇した。

次いで、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」(56.9%)が続き、「インターンシップにたくさん参加したい」(51.1%)、「受験する企業を絞り込んでおきたい」(50.7%)までが半数を超える。

意中の企業の内定獲得に向け準備に取り組む一方で、「就活準備イベント(合同説明会)に参加したい」(40.1%)、「まだ知らない業界・企業を探したい」(26.7%)など、就職活動が本格化する前にもっと多くの企業に出会いたいと考える学生も少なくない。

＜3月の就職活動解禁までの準備の進め方＞



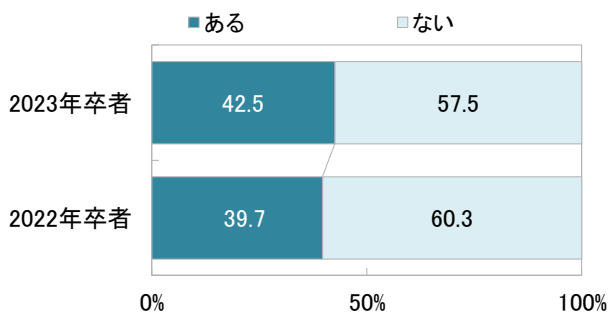
■就活解禁までの進め方・方針

- これまでの準備に加えて、解禁前に早期選考を受けて、本格的に選考慣れしておきたい。 <文系男子>
- 解禁までに選考を受ける企業を選定し、ある程度の対策をしておくことで解禁後に慌てないようにしたい。 <文系女子>
- 志望業界の早期選考を受け、内定をいただけたら、ルール順守の大手企業も受験したい。 <理系男子>
- 今までいくつかのインターンシップに参加してきたが、あまり企業理解が深まったようには感じていないので、これからはOB・OG訪問を通して、業界・企業への理解を深めていきたい。 <文系男子>
- 目先の内定ではなく、長期的な視点に立ち、合同企業説明会などの場に参加することが有益であるとする。 <理系男子>
- 就活解禁までに、自己PRと学チカを完璧にして、選考に備えたいです。 <文系女子>
- インターンシップに参加して初めてわかることがあるから、まだ参加したい。 <理系女子>
- 3月のスタートの時点で悩まずにスムーズに選考を受けたいから、それまでの間にできる限り志望企業を絞り込み理解を深めたい。 <理系男子>
- まだ見ぬ新しい企業を発見したい。就職活動は制限時間があるので、その時間の中で良い企業を見つけ就職したい。 <文系男子>

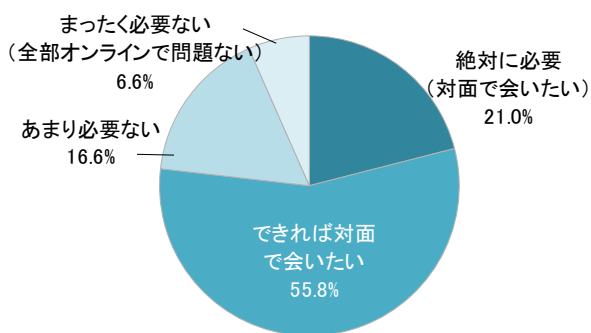
7. 志望企業との対面での接点

インターンシップやイベントなどで、現時点での第一志望企業と対面で接触した経験がある学生は、4割強 (42.5%)。前年同期調査 (39.7%) に比べるとやや増加したものの、志望度の高い企業であってもオンラインでの接点に限られている学生の方が多い。本選考が始まるまでに対面での接点が必要かどうかを尋ねたところ、「絶対に必要 (対面で会いたい)」は約2割 (21.0%)。「できれば対面で会いたい」(55.8%) を合わせて8割近くが、志望企業との対面での接点が必要と回答した (計76.8%)。新型コロナの状況次第ではあるものの、可能ならば直接会いたいという学生が多いようだ。

＜第一志望企業との対面経験＞



＜本選考前までの対面接点の必要性＞



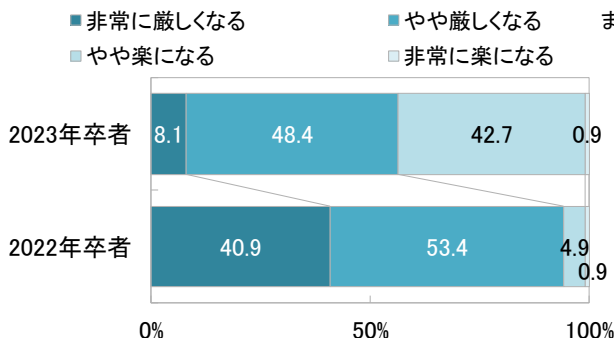
■どのような機会だったら対面を希望するか (志望企業に限らず)

- 営業体験などのインターンシップに参加する時。 ＜文系男子＞
- オフィスや研究施設の見学などであれば対面で参加したい。 ＜理系男子＞
- フラットに複数人の社員の方にOB訪問ができる座談会。 ＜理系女子＞
- 採用には直結しないラフな個人面談のような機会があれば参加したい。 ＜文系女子＞

8. 今後の就職戦線の見通し

自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たち (2022年卒者) と比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」8.1%、「やや厳しくなる」48.4%で、厳しくなると見ている者の合計は56.5%。前年同期調査では9割を超えていたが (計94.3%)、大幅に減少し、代わりに「やや楽になる」が大きく増えた (4.9%→42.7%)。ただし、今後の新型コロナの感染状況によっては採用数に影響が出ると予想する学生も多く、「大いに影響が出ると思う (感染が拡大すれば採用数が減少する)」(19.5%)、「やや影響が出ると思う」(49.6%) を合わせると、7割近くに上る (計69.1%)。こうした不安が前のめりの姿勢に繋がっている面もありそうだ。

＜就職戦線の見方＞



＜今後のコロナ感染状況の採用数への影響予想＞

